

ヒアリングでの有識者意見や市民から提供された情報等

(学識経験者、御苑周辺の福祉施設や小学校、関係機関から幅広く情報をいただきました。)

<p>御苑景観について</p> <ul style="list-style-type: none">御所と一体となった景観イメージを損なわない空間演出。「いつまでも変わらない」「子供の頃と同じ」という感覚を大切に。京都御苑は「日本文化の象徴である京都」(現代日本では既に失われた日本の原風景＝歴史的異国)を表現すると同時に、現在を生きる京都人にとっての「心の拠り所、故郷としての原風景」。
<p>御苑の風致(雰囲気)について</p> <ul style="list-style-type: none">一般的には御所と御苑の区別なく全体として「御所」と認識されている。平安京の内裏がそのまま残っていると思っている人も多い。実際には現在の京都御所は安政の造営、御苑は明治以降の整備で成立。戦後も外周部は大きく改変された。それでも来苑者には一定の満足感を与える。来苑者が事前に描くイメージとかけ離れず、利用者のもつ千差万別の期待感を満たすため。お寺では季節ごとに香やしつらえを変える。御苑もポイントごとに香や印象的な景などを置いては。どこからでも出入りが自由であるという特性は大事にしながら、一歩足を踏み入れると、落ち着いて歴史や自然を感じることができるといふ工夫があるとよい。御苑は必ずしも庶民を排除する場所ではなく、節度を持って入りやすいという場所。御苑利用を野放図に自由化して、荒れてもこまる。節度ある自由という考え方が大切。緑の手入れも含めてこれ以上の整備はしない欲しい。苑内にも整備状況に差がみられ、丸太町側は、御苑の表側だろうから今出川側と比較して整備されているように見える。が、整備のあまりされていない今出川側のほうが好き。御所は権力の場ではなく権威の場。堀なども作られず市中にあり、天皇の儀礼の際も見物客がいるなどオープンだった。権力者を招くことになる迎賓館は、御苑ではなく、堀があり防衛用のつくりになっている二条城のほうが似合っている。迎賓館にVIPが来るからといって御苑を閉鎖するのはナンセンスであるし、いまどきの武器があれば、立ち入り禁止にしても開放しても変わらない。京都市民が大切にしている京都御苑の管理イメージとは違う。御所に天皇が住んでいた頃も、周囲に高い塀があるわけでもなく、御所は江戸時代を通じて一般市民に溶け込んだ場所だった。VIPの方々も気軽に苑内を散歩し、市民と交流すればよい。
<p>施設デザインについて</p> <ul style="list-style-type: none">休憩所などの建物も御苑にふさわしいデザインに。生活感等のある施設・場所は上手に隠す。御苑は四季とも美しいが、特に九条池に架かる高倉橋より見る拾翠亭の風景を見ていると時がたつのも忘れるほど美しくまた心やすまる。御苑のお勧めの風景は建礼門前。門を背に南面すると全ての人を受け入れる寛大さ行き交う人々を見守る優しさを感じる。
<p>公家町跡・旧皇室苑地の有効活用について</p> <ul style="list-style-type: none">魅力的なスポットとしての御苑南部と北部にある庭園整備(閑院宮邸跡の建物と庭園、九条池・拾翠亭周辺、近衛池周辺、中山邸跡と桂宮邸跡の庭園)を進める。迎賓館建設の際の発掘調査でいくつか公家屋敷の庭の跡がみつかった。家格で庭のつくり(豪華さ)も違う印象。かつての庭の復元ができればおもしろい。屋敷建物の様子もわかれば模型を示すことも一考。現況では公家町をイメージさせるものは御苑内にほとんどない。公家町の復元を考える場合、ぬかるみの土の道を石畳にするなど、現代の価値観を入れる方法もある。見本としていくつかの公家屋敷を復元できれば興味深い。基本的には旧来どおりの公家町の再現ではなく、今の御苑を維持するという視点で、今の御苑はこれで大変美しい。明治以降これまでの間も御苑内はいろいろな変遷がみられる。その整理と評価も必要。閑院宮邸跡西側の庭は明治官庁宿舍付属のものとして珍しい。復元し公開するとよい。閑院宮邸跡の庭の南面は、もっと樹木があったほうがよい。まだ作業途中という印象を与える。拾翠亭は優美であり素晴らしい空間。近衛池跡の池庭が残り貴重。かつて池端にあった錦流亭を復元しては。桂宮邸跡にある庭は貴重。復元、公開する。中山邸の産屋は、歴史を体感できるものとして貴重な施設。施設の性格上限定された公開が適当。賀陽宮邸跡の築山のように、地形の名残は残しておきたい。現実に見られる地形が名残としてあれば、昔ここに公家屋敷に由来する邸宅や庭園があったことを想像しやすい。庭園の復元は建物の復元とは異なる。都市における庭園はやはり農村での里山。人間と自然の両者の活動が相互に交じり合う。御所は気軽に立ち入れない場所だが、御苑内に子供にも理解できるような歴史の展示や空間を用意すれば、御苑内の各施設等全体がネットワーク化されておもしろい空間になる。
<p>非常時(災害時)の御苑の役割に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">京都御苑は広域避難場所に指定されている。災害時は水の確保が第1。今は地下水をポンプで汲み上げ循環させているため電気がとまると水の供給もとまる可能性がある。非常時の水対策は極めて重要。かつて琵琶湖疎水から御所への専用水管(御所水道)が引かれていたが平成4年に閉鎖されている。防災上の観点等から、旧御所水道の復元を検討できないか。

<p>水環境整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苑内の枯れ井戸の底を掘り、水を出せないか。御苑から水が出れば、多くの人が水をくみに訪れる。 ・ 出水の小川には子供たちがたくさん訪れている。もうすこし川が長いとよいのでは。
<p>ホームレス対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年はホームレスを襲う事件も問題になっている。そのような事件を誘発する状況とならないようホームレスの居着かない施設管理が求められる。
<p>グラウンドの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グラウンドは、苑内にわざわざおいておく必要があるのか。周辺で廃校になった小中学校があり、それを公民館やグラウンドとして活用する事例がある。そのような施設との連携、整理を行えば御苑にあるグラウンドの区域もグラウンド以外の利用に考えていくことができるのでは。
<p>新たな施設整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苑内所蔵品を集めた博物館があるとよいとも考える一方、ハコモノはこれ以上苑内に作らず、今の状況を保護していくほうがよいとの考えもある。 ・ 自転車利用者のコントロールが必要。 ・ 休憩所が御所に似つかわしくないように思う。もう少しあたたかみのある休憩所にして欲しい。
<p>情報発信のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信では、コミュニケーション戦略をたてる。様々なレベルの層を対象とした情報発信のチャネルや情報内容を考える。 ・ 苑内にある気になる造形・小山・など、「何だろう」と思う場所に、解説表示をしては。 ・ 御所に集約される情報は膨大。分析的な情報整理によるだけでなく、全体的に臚ではあっても、より深いイメージを与えることができるような情報整理、コンセプトの提供の仕方もある。
<p>情報発信の方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苑内で、その歴史を理解できる行事を行い市民に御苑の役割を理解してもらおう。「行事」は季節の節目を体験する大切なもの。 ・ 春秋の御所一般公開にあわせて歴史や文化プログラムをセットする。 ・ 御苑文化講座を設け、その際、閑院宮邸跡や拾翠亭の見学もセットする。 ・ 苑内の公家屋敷ゆかりの名木については、少しずつ研究を進め、情報を整備。 ・ 修学旅行の事前予約を受け、ガイド付きで案内をしてはどうか。オーディオを貸し出して解説を加えるのもよい。ひとりで苑内を見るだけでは、せつかくの資源情報がわからない。 ・ ガイド付きウォーキングは全国的に流行。観光客の求めるスタイルでツアー商品化の際の重要な要素。 ・ 情報発信には、広聴が大事。食堂というゆったり滞留する場所の机に、自由に意見を記入できるノートや、居酒屋のテーブルにあるようなアンケート用紙を置いて、情報入手につとめる。 ・ 御苑を訪れた人に御苑を思い起こさせるニュースを発信することは、御苑とのつながりを保つうえでも大切。メールマガジンを発行し、ウェブサイトと連携をはかる。市民が応募しているフォト作品も、展示ホールに飾るだけでなくウェブサイトでも公開する。 ・ 外の人の目を有効に使うことが大切。大学と組んで情報発信をするのもよい。外の目を上手につかうと、内容の信頼性が高まるだけではなく、中の人気がつかない面白さも発見できる。 ・ インタープリターの会をつくっては、マニュアルづくりや案内板づくりもガイドのチームで行う。 ・ 京都御苑の自然観察プログラム等で学校と組むと良い。特に小学校。子供たちの場合は、教えるというスタイルだけではなく、子供達の主体性や自主性、それぞれの感性を活かす方法もある。 ・ パンフレット等の印刷物は野外で使い勝手のよいようサイズは小さく硬い紙にするとよい。無料ではなく有償でもよい。御苑の地図も入れるとより便利。子供用もつくとよい。また四季の変化を入れるとよい。目玉の情報をうまくレイアウトする。 ・ 閑院宮邸跡のように御苑の歴史や自然を解説する施設が苑内に点在しているとよい。 ・ 街歩きに、途中休憩所が設定され、1時間コース、2時間コース、などが用意されているように、御苑にもそのようなコースを設定しては。京都御苑をより深く知りたいという人のためには京都御苑をくまなく巡るコースの設定も。 ・ 訪問者が、どのように御苑で過ごせるか選択肢を与える。歴史について調べるのもよいし、ポーッと何もしないというのも入れるとよい。各興味ポイントをつなげるのもよい。 ・ 拾翠亭の庭でろうそくなどの光の揺らぎをテーマに夜間にイベントをしてはどうか。 ・ 来訪者が御苑を訪れる前にあらかじめウェブサイトを検索して、情報をプリントアウトして持参するという方法は考えられないか。

情報発信の内容について

- ・ 昔の公家町のイメージを鳥瞰図等で再現できないか。目で見てイメージできる点が重要。
- ・ 木の名前や、何属何科とだけ書かれるより、その木にまつわる歴史等も書く。
- ・ 御苑には、五摂家の碑が必要。ブロックごとに公家町時代の地図を表示する。
- ・ 御苑の歴史や自然の情報発信も大事であるが、御苑が環境省で管理されているといった今のことについての情報発信も大事。
- ・ 一般的には人物にまつわる物語に興味もたれる。施設、建物だけでなく、人物に焦点を絞り、情報発信すると良い。漫画による表現も有効。
- ・ 興味を持つ情報というのは、既に分かっていることではなく、むしろ発見途中のようなものではないか。所長が今回京都御苑について調べていることを同時に情報発信してはどうか。
- ・ 対象が皇室や公家町の歴史に関わることで、丁寧で正確に、また失礼のないよう情報整理を行うことに配慮。諸説のあることや、裏付けとなる資料や遺跡が未確認の場合は、情報の品質表現を適切に処理。

情報収集について

- ・ 電話などでの問合せ情報を活用する。情報を集め整理することでよりよいサービス提供につながる。
- ・ 外国人を含めて、御苑を環境省が管理していることはほとんどの人が知らない。御所を含めたワンストップの窓口として、宮内庁にも環境省にも属さない代表電話をおいてはどうか。御苑外にオペレーターを置くアイデアもありえる。
- ・ 外国人は公的インフォメーションに問い合わせをする。そこで情報収集や発信をすると良い。

現況施設の情報機能について

- ・ 閑院宮邸跡は、御苑全体ではなく閑院宮邸に関する情報提供だけでもよい。展示内容を読むのは大変。
- ・ 中立売休憩所内飲食コーナーで、掲示板前前に椅子や机があると利用者がゆっくり見られるだろうか。机の配置も考え見るスペースを確保する。
- ・ 祐井碑は、門の中であり、何がかいてあるかわからない。
- ・ 「鷹司邸跡」「猿が辻」という標柱だけでは歴史に詳しくない者にはその資源価値やイメージがわからない。傍らにゆかりの木があれば、その説明をきっかけに臨場感を伴った歴史理解ができるのでは。
- ・ 植物園ほど多くなくとも代表的な樹木等へ名札を付ける。
- ・ 幕末期の歴史紹介だけでなく、平安期など、それ以前の過去の歴史紹介も検討する。
- ・ 閑院宮邸跡の講堂は、様々な環境問題の発信の場としてNPOとの連携による活用をすすめる。

御苑利用者のマナーについて

- ・ 犬の散歩や観光客の行動などマナーの問題あり。砂利道の中につく自転車道は老人も歩きやすい路。しかし老人が歩いているのに自転車で強い勢いで通ろうとする者がある。トラブル予防のため、歩行者優先といった表示を動線の両端の門にかく。
- ・ 御苑内での犬の散歩のマナー（主に放し飼い、糞等の不始末）の向上に努める。
- ・ 休憩所の喫茶店を禁煙にすべき。屋外の喫煙スペースも通行人に影響がないように配慮を。
- ・ 休憩所の喫茶店のメニューの英語表記を見直した方がよい。

御苑のバリアフリー化について

- ・ 御苑は京都の中心にありバリアフリー化が進めば、多くの福祉施設からの利用が進むのでは。潜在的なニーズはある。が、駐車場があること、車から車椅子をおろす場所があること、費用があまりかからないこと、観光客で混んでいないこと等の条件が満たされることが望ましい。
- ・ 苑路端に車椅子で移動しやすい通路をつける。景観を損なわないように配慮して。
- ・ 砂利道はやめて土の道にする。御苑の苑路を広げて砂利を敷き詰めたのは明治が大正以降ではないか。風景になじむならバリアフリールート幅の砂利をのぞいても差しつかえない
- ・ 閑院宮邸跡の東門から建物玄関部まで車椅子歩道をつなげる。間の町口から東門までの砂利道も改良する。閑院宮邸跡ののスロープ手すりは木製のほうが良い。
- ・ 苑内に車椅子利用のモデルルートを検討する場合は、京都御苑で一番おすすめの良いルートを選定する。誰もが好む、木陰の静かなルートなど。
- ・ お年寄りや自然を感じられる場所を好む。桃林、梅林、出水の小川などのあたりにいきたいだろう。
- ・ 杖をついている人には、数百メートルおきに四阿のような木陰になるところがあると良い。
- ・ 砂利苑路は車椅子を押す人も辛いし乗る人も振動でつらい。杖をつく人も足を取られる。車椅子一台に対して補助のスタッフを一人付ける必要がある。ガイド兼車椅子を押すボランティアがいるとよい。
- ・ 誰でも御所の歴史などを気楽に訪ねられる場所を数ヶ所設けて欲しい。また、休憩所に訪問時間が異なる人の安否を尋ねる手紙箱のようなものを設置して欲しい。

地球環境問題への対応について

- ・ 施設の整備の時にライフサイクル的な観点も考えてはどうか。地産地消など。
- ・ 施設整備や通常の管理等あらゆる面で環境配慮をしているということが訴えられるよう取り組む。
- ・ 砂利道を保水性のある材料、例えばレンガタイルのペーブメントにするなどすれば、より気温低下に貢献する。石畳は砂利に比べ、冷却効果上も良い材料。熱容量も大きく、光を反射し、夜は冷える。
- ・ 駐車場で、路盤を支えるスケルトンの間から芝生を生やす手法もある。砂利は保水能力がない。流行のウッドペープは、耐久性が気になるが、冷却効果上はよい。
- ・ 地球温暖化対策として、外灯を全て消すのではなく、防犯上の点も考慮し、形状や運営等工夫してエネルギー消費を減らす。
- ・ ヒートアイランドの問題がメジャーな昨今、御苑内の水で、都市の冷却効果が向上させることも検討する。一度なくした御所水道を復活させる試みがあってもよい。
- ・ 路盤材での温暖化対策も考えられる。保水ではなく蒸発を促進し、気化熱を奪うガーゼのような素材。植物植栽ができないところでは、直射日光をあてない日陰をつくることや、赤外線を吸収しないよう地面の反射率を上げることが大切。
- ・ 閑院宮邸跡の庭南面の樹木について、防音効果を高めるため、樹木はもう少し厚く植えた方がよい。

生物に配慮した施設のありようについて

- ・ 外灯の上部光や短波長カットを行い、生物にとって余分な光を減らす。
- ・ 京都迎賓館では、投光機を館内建物玄関の近くに設置したが、光が御苑の樹木側に漏れないように外側にカバーをつけるといった配慮を行っている。

循環型エネルギーの導入について

- ・ 苑内の太陽光発電の外灯は、人々の目に付くようにして設置の事実をPRする。光害対策も含めた外灯のデザインの工夫も是非検討を。外灯のデザイン等の工夫で地球温暖化対策に寄与するように。苑内の建築物でも、太陽光パネルを設置し、自然エネルギー利用をもっと採用する。

生物生息の場の保全について

- ・ 市民活動との連携の場として、都市内での安定した自然環境モニタリングの場として、京都御苑の役割はきわめて重要である。
- ・ アオバズクは御苑の緑を考える好事例。外周ケヤキの巨木はアオバズクを保護し、餌となる蝶の成長に必要なエノキがある。アオバズクの生息地のみを守るのではなく苑内にあるその餌や餌となる生物の生息地や更にその餌の食草全体も視野に。
- ・ 母と子の森は、部分的に野草を残す管理手法をとる。昆虫が越冬する時期は特に。
- ・ 宗像神社の周辺、白雲神社、母と子の森周辺、堺町御門東側、近衛池周辺、大宮御所西側、中立売駐車場東側の林苑地区や出水の広場の西側、焼却場跡、駐車場南側のスダジイのあたりもなどあまり手をいれず自然樹林を育てるべき場所。鷹司邸跡北側などでモミが何本も生えているところがある。都市内でのモミ林はなかなかみられない。富小路広場北側、児童公園北西側等、苑内でシイのたくさん生えている場所、林分の地区はできるだけ自然のままとした管理が望ましい。
- ・ 倒木をそのままにするのは、管理上問題がある場合もあるかもしれないが、昆虫など生物にとっては良い。テニスコート裏側にあった倒木にはいろいろな昆虫等が訪れていた。苑内の倒木を集積して「きのこ観察の場」をつくる。
- ・ 樹木密度が低い場所も、生物にとってそれなりによい場所となっているかもしれない。
- ・ 森にいる生物について、囲って保護する方向だけでなく、見せて解説の仕方によって、いろいろなことに気づかせることも重要。時間をかけ自然の大切さを伝え、わかってもらえる学習の場。保護のため、隠しすぎ、守りすぎはあまりよくない。見てもらい、理解してもらい、そうして守るという方法がよいのでは。京都には、自然に接触できる場所が少ない。そのような中で、御苑は子供たちにとって、自然に触れられるとても貴重な場所だ。
- ・ 京都御苑でのタシロランのモニタリングは、市民参加による活動として意義がある。この活動を通じて、市民が直接、身近な自然の価値の再確認をすることができる。
- ・ 御苑のところどころに深い森や雑草の生えるままの場所があっても良い。そのような緑地管理をしていることも明示する。
- ・ 迎賓館の周囲の樹木は残して欲しい。ニレ科の大木はこのあたりの公家屋敷地内によく見られた。今ではほとんどが切られ、御苑内にあるものは、昔の京都の面影を残すものであり、大事な資源。
- ・ 御苑は、今のままでも十分であり、これ以上の整備（緑の手入れなど）はあまりして欲しくない。使用する薬剤は最低限の量にとどめてほしい。
- ・ 御苑内の樹木の構造がどのようになっているのかを理解して、管理をする。庭としての手入れが必要であっても、生物にとってはさわるまいほうが良いという場合もある。このようなことも含めた将来的な御苑の管理・整備計画が必要だろう。
- ・ 出水の広場周辺（東側、西側とも）に大木がいくつもある。昔、子供の頃は木登りをしていた。そのような自然の親しみ方があることを伝えていく場所として考えたらどうか（最近「ツリークライミング」という分野も周知されてきている）。
- ・ トンボ池の周りは池にあまり光が入らないよう樹木管理を行う。光が当たりすぎるとカエル・両生類に影響がでる。
- ・ 小学理科で自然を学ぶのにトンボ池のような湿地は貴重。もっと広く浅い湿地があれば、樹木、草地も極力自然のままに。

